

あっと @JL

全学日本語教育通信

第9号 2015年
9月30日発行

あっと
@JLとは？

初年次教育部門(全学日本語教育)は、学生の日本語運用能力(Japanese Literacy)向上をサポートする組織です。これから、学内における日本語運用能力向上にむけたさまざまな取り組みを広く発信したいという気持ちを、“@”に込めました。



愛知淑徳大学「日本語表現」オリジナルテキスト(初版～第7版)
*中央および手前が、2015年3月発行の最新版

全学共通履修科目「日本語表現」では、学修段階を「基礎」「応用」「発展」に分けており、このうち「基礎」(科目名「日本語表現T1」、1年前期開講、全学必修)と「応用」(科目名「日本語表現T2」、1年後期開講、文・メディアプロデュース学部のみ必修)では、本学オリジナルテキストを用いて授業をおこなっています。

テキストは本学学生の学力に合わせて作成されており、年1回改訂発行しています。2009年の初版発行から実に6回の改訂を重ね、当初100ページ足らずだったテキストは、現在では120ページを超えるまでになりました。このような改訂の過程からは、おのずと学生の抱える日本語運用スキルの問題点が浮かび上がってきます。

今回は、愛知淑徳大学の学生全員が受講する「日本語表現T1」を対象に、テキスト改訂がどのような問題意識をもっておこなわれてきたか、その足跡をたどることで、学生の日本語運用スキル(特に文章表現)の課題に迫ります。

いつ、どのようにテキストを改訂しているのか

オリジナルテキストは、全新入生を対象におこなわれる学習力調査「国語」の結果、ならびに前年度の講義の成果と反省をふまえて、毎年内容が改められています。学生の最新の日本語運用レベルに即応するため、改訂に要する期間は、前年度の講義終了直後からの約7ヶ月間です(→【解説1】)。

特集

学生の日本語運用スキル

テキスト改訂から見る

【解説1】テキスト改訂の流れ

*「日本語表現T1」(1年前期開講)の場合

7月	講義終了
8月	講義反省会
9月	テキスト編集会議 *改訂計画・執筆分担決定
10月	原稿執筆
11~	テキスト編集会議
12月	*内容の審議
1月	原稿集約・編集、入稿
2月	校正
3月	テキスト完成

初版と最新版とでは、どの程度内容が異なるのか

6回にわたる改訂で、すべてのページが全面的に見直され、初版から全く手を加えていないページはありません。編集会議では、学生の文章から「つまずき」のポイントを分析していきます。その結果、初版にはなかった事項も、第2版以降徐々に追加されました（→【解説2】赤字部分）。

追加事項は、①小論文テーマへの理解を深めるピア・ワーク（講義編第5,8,11回）、②文章作成のポイントの実例付き解説（コラムなど）、③「型」が重視される文書の作例掲載（付録）の3種に大別できます。

本学学生が抱えている文章作成技術の課題とは

テキストの改訂作業からは、学生の文章作成をめぐる様々な問題がみえてきます。ここでは具体的に以下の3点を紹介します。

(1) 「ことば」を厳密に使用することができない

伝えるべき内容に最も適した「ことば」を選ぶという意識がやや希薄です。例えば、「この本を読破した」と「この本を読了した」は、同じく「読み終わった」という事実を伝えますが、前者は「大変だったけれども読み切った」という感慨をも含みます。授業では、文脈に合ったことばを吟味するよう指導するとともに、類語辞典の活用法などにも触れています。

(2) 「パラグラフ」という概念が曖昧である

残念ながら、学生は「パラグラフ」の役割をあまり意識していません。



改行のタイミングが不自然というだけでなく、なかには、改行が1カ所もなかったり1文ごと改行されていたりするケースも。授業では、①「パラグラフ」の役割を理解すること、②「1パラグラフ=1トピック」の原則を用いること、③パラグラフ同士を適切な接続語でつなぐことの3点を繰り返し指導しています。

(3) 「事実」を無批判に摂取する

新聞や本などが伝える「事実」を無批判に摂取し、それに基づいて意見を述べる傾向がみられます。しかし実際に新聞を数紙読み比べてみれば、同じ「事実」の違った側面が浮かび上がることもあるでしょう。人を介して伝えられる「事実」には、書き手の判断、すなわち「意見」が混在しています。情報源は1つに限定しないこと、様々な情報や常識・価値観に対して「本当にそうなのか」と立ち止まって考え直すことなどを、文章を作成する過程で伝えています。

オリジナルテキストで授業をおこなうメリットは、目の前の学生の「いま」にいち早く対応できるという即効性にあります。学生にとって手応えを感じられるテキストになるよう、今後も改良を重ねていきます。

【初年次教育部門准教授 外山敦子】



【解説2】

【日本語表現T1】テキスト（最新版）

目次

●講義編

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 学術的文章の特徴を理解する
- 第3回 文法的に適切な文を書く
- 第4回 **書き手の意図を正確に伝える**
- 第5回 課題(1)小論文を書く-初級編-(準備)
- 第6回 課題(1)小論文を書く-初級編-(執筆)
- 第7回 課題(1)小論文を書く-初級編-(推敲)
- 第8回 課題(2)小論文を書く-中級編-(準備)
- 第9回 課題(2)小論文を書く-中級編-(執筆)
- 第10回 課題(2)小論文を書く-中級編-(推敲)
- 第11回 課題(3)小論文を書く-上級編-(準備)
- 第12回 課題(3)小論文を書く-上級編-(執筆)
- 第13回 課題(3)小論文を書く-上級編-(推敲)
- 第14回 到達度を確認する
- 第15回 授業のまとめ

●日本語の知識セレクト 10

- 第1回 **漢字の読み取り**
- 第2回 **部首**
- 第3回 **熟語構成**
- 第4回 典拠のある四字熟語
- 第5回 対義語
- 第6回 類義語
- 第7回 同音・同訓異字
- 第8回 **誤字訂正**
- 第9回 **送りかな**
- 第10回 **漢字の書き取り**

●コラム

- 1. なぜ表現を考えなければならないのか
- 2. 数ある類語から最適な一語を選ぼう①
- 3. 数ある類語から最適な一語を選ぼう②
- 4. 情報を正確に伝えよう
- 5. 順序立てて説明しよう
- 6. 接続語を使い分けよう
- 7. 事実と意見を区別しよう
- 8. 事実をあらゆる角度から検証しよう
- 9. 要点を的確に見抜く力をつけよう
- 10. 「私語り」に注意しよう
- 11. 「コピペ」と言われないレポートを作成しよう
- 12. 資料を活用して自分の意見を補強しよう

●付録

- 文章表現ガイド
- 原稿用紙の使い方
- 履歴書の書き方(付: エントリーシートの作例)
- 手紙文の書き方
- Eメールの書き方
- 書評の書き方
- もっと詳しく学びたい人のために 文献ガイド
- 自分の力を試してみたい人のために 検定ガイド
- 参考文献
- 提出用紙 (総計 122 ページ)

* 赤字…初版から追加された内容

WSD便り

ライティングサポートデスク（通称WSD）とは？

日本語文章作成の疑問・悩みの相談窓口です。

長久手・星が丘両キャンパスにおいて毎授業日に開室しています。

※ 本号から、第3面ではWSDの活動をご紹介するとともに、日本語関連の書籍や日本語表現に関する豆知識など、文章執筆に役立つ情報をお届けします。

「春の見学キャンペーン」実施!!

WSDではこの春、4月13日(月)から5月15日(金)までの約1ヶ月間にわたって、学生・教職員を対象にWSDの利用方法についての説明会「春の見学キャンペーン」を実施しました。参加者は両キャンパス合わせて412名にのぼりました。

本キャンペーンでは、チューターが見学者に案内リーフレットを配付し、個別相談の様子や利用可能な設備、貸出図書について説明しました。熱心にチューターの話に耳を傾ける学生の様子からは、WSDへの期待が伝わってきました。

見学者が早速来室するようになったため、実施後の利用者は急増し、開室2ヶ月で昨年度1年分の利用者数を上回りました。

今後もWSDでは質の高い執筆支援を目指すとともに、学生が利用しやすい環境を整えていきたいと考えています。



見学キャンペーンの様子(星が丘キャンパスにて)

見学キャンペーンに参加後、WSDの常連となった立川さんに利用の動機を聞きました。



立川友紀子さん
交流文化学部2年

利用のきっかけは、授業の一環として参加した見学キャンペーンでした。その時目にとまった本棚をじっくり見たくて、キャンペーン参加の翌日に再訪し、さっそくプレゼン準備に役立ちそうな本や、書店で紹介されていて気になっていた本など合わせて3冊を借りました。その後返却するたびに新たに3冊借りています(WSD注：貸し出し上限が3冊です)。WSDの本棚は、授業や実生活に役立ちそうな日本語表現の本、つまり学生なら誰もがが必要だと感じる本にジャンルが絞ってあるので、必ず読みたい本に出会えます。文章作成支援と合わせて、今後もどんどん利用したいと思います。まだまだ周りにはWSDの存在を知らない人が多く、もったいないと思っているので、今、友人にも宣伝中です。

WSDの本棚より vol.1

このコーナーではWSDチューターやアドバイザーからの「おすすめ本」を紹介します。今回はチューターから教員・学生に向けての「おすすめ本」です。

国語や日本語教育の教員をめざしている学生さんにおすすめです！授業の導入や、息抜きのネタとしても活用できます。



WSD チューター
榎原久子
文化創造研究科
博士後期課程2年

書名：『日本語・国語の話題ネタ — 実は知りたかった日本語のあれこれ』
なぜ「博」には点があって「専」には点がないの？「スパゲッティ」は単数形？複数形？

日本語に関するちょっとした疑問から、雑談にも使える小ネタまで、本書では国語や日本語に関する様々な知識を紹介しています。気になっていたけれど実は知らなかった日本語の雑学知識を、音声、文字表記、語彙、文法の4章に分けて教えてくれます。

国語科の教員を目指している学生の方は、ぜひご一読あれ！児童・生徒に披露したくなる面白い話題が見つかるかもしれません。

ひとつの話題が1~3ページ程度にまとめられているので、ちょっとした時間に気軽に読めます。忙しくてなかなか時間が取れない方、空いた時間を有効に活用したいと考えている方も、一度手に取ってみてはいかがでしょうか。



『日本語・国語の話題ネタ
— 実は知りたかった日本語のあれこれ』
著：森山卓郎 ほか
ひつじ書房 2012年
定価：1,600円(税抜)
ISBN：4894765411
学内所蔵先：
図書館(長久手本館、星が丘分館)
WSD(長久手キャンパス、星が丘キャンパス)

書く書くしかじか...

学生から、教職員から

基本は日本語！

高瀬物産株式会社 業務課
(文学部英文学科2014年度卒業生)
大橋 聖平



私は今春、本学英文学科を卒業しました。英語力も重要だけれど、日本語力を身につけることがより大切だと在学中に思うようになりました。その理由は単純で、私たち日本人にとって日本語は母語であるからです。日本語で読解力や文章力、口頭発表の仕方を身につけた後に、次のステップとして英語の勉強に励めばよいと思います。英語も日本語も文章の基本は同じなので、日本語で身につけたその能力は英語でも活かせるからです。

日本語表現科目ではレポートや発表が課されるので、テーマに沿った情報を集めて使える情報を取捨選択したり、調べて判明した事実をわかりやすく正確に相手に発表したり、発表で受けた批評を元に最終レポートをまとめたりします。今思えばと英語で書いた卒業論文も同じような工程で制作していたと感じます。漢字や敬語は社会に出てから間違えると恥ずかしいので(私は会社で漢字ミスたまに訂正されて恥ずかしい思いをしています)在学中に身につけておいて損はないです。

今の時代、英語を勉強すべきだと言われることがよくありますが、その前にきちんとした日本語を身につけておくことが大前提だと思います。…と、えらそうなことを言っても私は拙い日本語で先輩社員を怒らせてしまうことしばしば。私も日本語をやりなおさねば!

何枚書けばいいですか

心理学部教授
新美 明夫



私のゼミでは、卒業論文冒頭の「問題部分」の下書きを書くという課題を、4年生の春に出す。表題の発言は、その課題に対して毎年必ず出てくる質問である。

「卒業論文に枚数制限はないから、必要なら何枚書いてもいいよ」と言うと「えーっ」という反応になる。学生たちは量的な制限のない文章を書いた経験はあまりない。作文なら原稿用紙3枚以上とか、試験なら600字程度などと、おおよそ書かなければいけない分量が呈示されてきた。できるだけ少ない分量を示唆してほしいので、「必要なことを全部書いていったら、そこそこの枚数になっちゃうよ」と言っても納得できないようだ。

かくして下書きは、3年次に各自のテーマに関連して集めた材料を、できるだけ多く、ただ放り込んだだけの前後の脈絡のない文章となる。それに対して私の作業は、学生の意図を推測し、関連する材料を近くに集め、材料と材料の間のつなぎの言葉を考えさせることである。そんな作業を3、4回繰り返すうちに、学生は自分の研究目的が明確になってくる(なってきてほしい)。

日本語表現のテキストには、そんな学生とのやりとりが、実にきれいに整理された形でまとめられている。こんなふうにアドバイスしてやればと、この時期になると思う。

インフォメーション

☆公式ホームページを開設しました。

このたび、本部門の組織・活動を幅広く紹介する公式HPを開設しました。本部門独自のカリキュラムからライティングサポートデスクその他における取り組み、本広報誌のバックナンバーまでご覧いただけます。紙面右下のURLあるいはQRコードよりアクセスしてください。

☆日本漢字能力検定学内団体受検(6月21日実施) 結果

受検者211名(2級・準2級合計)、2級合格者36名(合格率18.6%)

☆平成27年度前期「愛知淑徳大学図書館〈書評〉大賞受賞者決定

(主催:図書館、協力:初年次教育部門)

応募総数246件のうち、大賞1名、準大賞2名、佳作2名の計5名が入賞しました。

☆学生の投稿文が「中日新聞」に掲載されました。

中島 綾菜さん(文学部国文学科1年)
「築20年ツバメの巣 今年も帰省」(7月9日「ハイ編集部です」欄)
二村 亜紗花さん(文学部国文学科1年)
「人生に転機くれた古典」(7月24日「発言」欄)

☆講演依頼を受けました。

Facultas 第5回大学支援セミナー
「初年次ライティング指導の実施とその評価」
(名古屋:2015年5月16日、大阪:5月23日、東京:5月30日)
「愛知淑徳大学・全学的日本語リテラシー教育の取り組み」
講師:初年次教育部門准教授 外山敦子

編集後記

本誌3面でご紹介したWSDが盛況です。前期後半には連日多くの学生の来室がありました。見学キャンペーンで実施したアンケートでは、ライティング支援に高い需要があることも明らかになりました。学生の「学びたい」という意欲に応えるため、後期もスタッフ一丸となって頑張っていきたいと思います。(荒木弘子)

発行年月日 2015年9月30日
編集/発行 愛知淑徳大学初年次教育部門(全学日本語教育)
〒480-1197 愛知県長久手市片平二丁目9
TEL: 0561-62-4111 (代表)
E-mail: nihongo@asu.aasa.ac.jp
HP: http://www.aasa.ac.jp/shonenji/nihongo/

公式ホームページ

